

青少年もがみ

第30号 令和元年8月1日

—発行—
最上地区青少年育成連絡協議会



高校生ボランティアサークルによる町内美化活動(最上町)

青少年の可能性を信じて

最上地区青少年育成連絡協議会会長

小松 功



長い間大きな地震がなかった山形県で発生した山形沖地震では、その後の報道で、東日本大震災の教訓が生かされたこと、地域内の協力体制が良かったこと等が報道されました。その中でも庄内地区の各高校生ボランティアの報道は、力強い安心感を抱かせてくれました。

今、青少年の活躍は、「地域づくり」や「地域の活性化」に欠かせない力となって来ています。

長年続いている「最上地区青少年育成懇談会」では、高校生と大人の交流、高校生が自分の進路、地域のことを考えるきっかけ、地域への興味・関心の喚起を目的として回を重ねてまいりました。今年度は、地域おこしや活性化に高校生がどう関わることができるのか、何ができるのか等を話し合い、できたら具体的な活動まで持っていければと考えています。非常に速いスピードで大きく変わっていく地域の状況に、瞬発力のある高校生のアイデアと豊富な経験や実績のある大人がコラボレーションすることでどのような反応が起きるのか非常に楽しみです。

一方では、ICT機器の急速な普及により、SNSによるいじめの水面下での拡散、簡単に手に入れられるようになった薬物の乱用、出会い系サイトによる犯罪への関与等青少年の健全育成への影響が懸念されています。スマートフォン等のICT機器利用については、大人の方がよく知っているとか、経験があるといったものではなく、子どもたちと同等もしくは子どもたちの方が優れていることが、今までにない特徴ではないでしょうか。私たち大人は、今こそ「大人が変われば子どもも変わる」を実践して、大人から不適切な使用や依存のしすぎに注意すべきではないでしょうか。また、子どもと楽しく便利に使うためのルール作りを話し合えば、きっと子どもたちも分かってくれると思います。スマートフォン活用の主導権を大人に取り戻しましょう。

今年度は、「山形県青少年健全育成県民大会」が10月27日に新庄市民プラザで開催されます。県内の青少年健全育成に関わる者が一堂に会して課題の共有を図るとともに、問題解決や実践活動への決意を新たにするために開催するものであります。地域の皆様一人一人が青少年健全育成に関心をお寄せ頂き、ご支援ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。